

2022 年度 学校法人 三幸学園 東京ウェディング＆ブライダル専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 末安 由香

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 重点施策

「ブライダル業界で活躍できる人材を育成する」をゴールとし、「社会人意識を持つ→職業観を養う→自信がつく→プロ意識を持つ」というステップを2年間の育成軸として指導を行う。また、【授業・学校生活を通して身に付ける社会人基礎力】、【授業を通して身に付ける専門知識や技術】をベースに、2年間で必要な力を行事と連動しながら身に付けることができる生徒指導を行う。

(2) 振り返り

- ・担任による指導のクラス間格差をなくすために、経験年数が少ない教員とベテラン教員を組み合わせるペア・チーム担任制を敷いたところ、指導にクラス差がなくなり一定の効果が見られた。また、授業だけでなく就職指導・行事においても共通の資料を使用し、統一した指導ができるようにした。行事によってはクラス単位の指導ではなく、セクション(役割)ごとの指導に切り替えレベル差を改善した。この結果、年度末に行う「学校生活アンケート」において担任とクラスに関する満足度を問う項目は、全てにおいて学園姉妹校内においてトップの数字となった。
- ・講師を含めた全教職員の指導力格差を完全に埋めるには至らず、全体の底上げは引き続きの課題である。それを踏まえ、2023 年度は年度当初より教員向けの研修や情報共有ツールの積極的な活用を行い、教員間の意識のズレを防いでいる。加えて、生徒が学校生活を通して身に付ける社会人基礎力を意識できるように、リフレクションシートを活用。適宜振り返りの時間を設け、達成度合いを確認できるようにしていく。
- ・コロナ禍でできなかった企業訪問も積極的に行うようにしており、現場の声やニーズを生徒に伝えることで生徒指導、就職指導の質を向上させていきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・社会経済のニーズ等を踏まえた将来構想

昨今のニュースを背景とした SNS リテラシーについて、生徒への更なる指導が必要である。また、今後ダイバーシティ(表層的・深層的)の教員理解を深めるとともに、合理的配慮が必要な生徒が入学してきた場合の就職先の確保なども必要となってくる。

② 今後の改善方策

SNSリテラシーに関しては統一の資料を使用し、特に長期休暇前に生徒に対しての指導を強化していく。また、多様なバックグラウンドを持つ学生に対しての理解を深めるため、ケーススタディなどを用いて、より実践に近い形で教員の研修を実施したい。全体会議などを利用して、まずは教職員にダイバーシティや合理的配慮の重要性を浸透させたうえで、生徒に対しても理解を促していく。加えて、現在も実施しているスクールカウンセラーの活用も更に進めていき、より多くの生徒にとって居心地よい環境を提供できるように努めたい。

③ 特記事項

なし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システム化による業務の効率化

作業効率をあげるため、今後に残せる授業データの蓄積や、Teamsを利用して業務のチームごとにチャットでデータ共有するなど、少しずつ業務効率は上がってきている。しかし、残業時間の大幅な短縮には至っておらず、2023年度は新入教職員も多いため、業務の効率化は引き続きの課題としている。

② 今後の改善方策

作業効率を上げて、残業時間を減らしていくためにも施策は更に強化していく必要がある。具体的には、次年度に残せる共通の授業データの蓄積は引き続き行い、授業準備時間の短縮につなげたい。また時短勤務者も多いため、会議時間の短縮を目指し、会議の運営方法を改善する。

③ 特記事項

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・職業に関する外部関係者からの評価

担任を含む教職員のほとんどが業界出身もしくは現役で働いているため、外部関係者からの評価を頂かずとも、生徒に対して職業に関する話ができています。学校生活アンケートを見ても「担任の先生方から将来目指す業界についての情報を聞いたり得たりする機会がある」という項目は学園姉妹校の中でトップであり、生徒より高い満足度を得ることができています。今後は卒業後の早期離職を防ぐためにも、生徒の適性が就職を希望する企業とマッチするかを考えていく必要がある。

② 今後の改善方策

2023年度は、職種の特徴ややりがいなど、教員が実体験を伝える「就活サークル」という活動を年間を通して行っていく。まずは任意での参加からスタートするが、教員を変え回数を増やすことで数多くの生徒の参加を促していきたい。

③ 特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・退学率

2021 年度と比べると 0.5%の減少となったが、3%という目標には届かず、5.7%という結果となった。主たる退学理由としては目標喪失や友人関係があげられる。

・卒業生の社会的な活躍及び評価の把握

連携が円滑に進められている企業様を除き、全ての卒業生の評価の把握はできていない。

② 今後の改善方策

・退学率

担任陣だけの努力では退学率を低減することは困難なため、教科担当者やスクールカウンセラーとも連携を図っていきたい。教科担当者からは生徒状況の共有を行ってもらうことで、速やかな生徒面談に繋げ、不安や悩みを解消していく。生徒の不安や悩みが教員ではなく、カウンセラーに対処してもらった方がいい内容であればスクールカウンセリングへの促しも行う。多くの教員、スクールカウンセラーが連携を図るためにも情報共有は徹底して行っていく。ゴールデンウィーク明けには1年生に向けて不安や悩みをヒアリングするためのアンケートを行い、いち早く退学の芽を摘めるように努める。

・卒業生の社会的な活躍及び評価の把握

2023 年度は昨年度コロナ禍で行えなかった 10 周年同窓会を開催する。その際にアンケートを実施し、状況を把握できるようにしていく。

③ 特記事項

なし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・卒業生への支援体制

卒業生ネットワークサイト「Sanko Link」の定着ができていないのが現状。教職員の異動も多いため、学校（元担任）と卒業生全体での繋がりが希薄になり、離職状況が完全に把握できていない。

・社会人のニーズを踏まえた教育環境

卒業後の学びなおしの機会の場は提供できていない。

② 今後の改善方策

卒業生ネットワークサイトだけに頼るのではなく、卒業生の LINE の取得を積極的に行いより連絡を取りやすくすることで、卒業生への支援につなげていきたい。また一方的な発信ではなく、相互でのやり取りができるような仕掛けを検討し、ニーズに応えていける環境を作っていく。更に、企業訪問の際に卒業生にどんな支援をしたら良いかをヒアリングし、今後の施策の方向性を決定していきたい。

③ 特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・インターンシップの教育体制

2022 年度はインターンシップに対しての理解を深め授業内や面談で指導を行ったにもかかわらず、途中離脱者が42%も出てしまった。

② 今後の改善方策

2023 年度は、インターンシップ対策の授業の中で学校との両立の仕方や、インターンシップに臨むにあたっての心構えなどを昨年度よりも時間を取って伝えと共、事前アンケートを 2 回取ることで、担任や企業担当の面談機会を増やしている。また、企業様と今後も密に連絡を取り合い、インターンシップを長く続けるための施策をすり合わせていく。同時に、インターンシップから就職につながるような連携も取っていきたい。

③ 特記事項

・海外研修制度あり(新型コロナウイルス感染症の規制緩和を受け 2023 年度から再開)

・インターンシップは選択科目として運営

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適切な運営を継続していく

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特に問題はなし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・生徒のボランティア活動奨励・支援

ボランティアに行くことで成長できる旨を生徒に発信はしているが、支援までにはいきついていないのが現状。

② 今後の改善方策

まずは同学園姉妹校、グループ事業等と連携し活動できる場から始めていく。

③ 特記事項

文京区教育委員会より要請があり、フリースクールに通っている中学生への職業体験を実施した。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

・留学生の受け入れ体制

毎年数名のオープンキャンパス参加者はいるものの実際に入学をする留学生は少ない。入学した留学生が日本で就職希望をしてもビザの関係で就職が困難な為、卒業後の進路指導が課題。

② 今後の改善方策

留学生にブライダル業界や学校の認知を広める必要があるため、日本語学校との情報交換を行う。

現在繋がりのある企業に留学生の受け入れが可能かヒアリングを行ってリスト化し、オープンキャンパス時にも受け入れ企業の提示ができるよう進めていく。

③ 特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

「ブライダル業界で活躍できる人材を育成する」ことを目標として行ってきたカリキュラム変更や、教員格差を埋めることを目的に実施したペア担任制度に一定の効果が見られた。

特に教務面や就職支援の面では定量的なデータからも生徒満足度に繋がったことが確認できた。ただし退学率に関しては改善の余地があるため、2022年度の振り返りを基に改善に繋げていきたい。その他の面においては学生、卒業生、業界関係者の方の声を取り入れながら更なる質の向上に努めてほしい。